

FAX 06-6233-3111

創元社

https://www.sogensha.co.jp/

〒541-0047 大阪市中央区淡路町4-3-6 TEL 06-6231-9010



※担当者名が未記入の場合、取次店都合で配本がなくなる可能性があります。

担当者名

年 月 日

☆締め切り日を過ぎた場合は注文扱いで出荷

コーナー：自然科学

食べるのが楽しくなる 口のひみつ

受注締切:7月1日／搬入予定:7月15日



条件:新刊委託
A4変／上製／72頁

今泉忠明監修／くぬぎ太郎イラスト／本体2,500円

ISBN 978-4-422-41183-5 C0047

「口の世界へようこそ。」現代では口を酷使する機会が増えており、口の役割についての理解がますます重要になっています。口の機能や動物との違いなど、口に関するさまざまな疑問に答えながら、口のしくみや役割についてくわしく解説しています。鮮やかなイラストや図解と写真を用いながら、口の進化や歴史、心理的な側面などにも触れ、子どもと大人がいっしょに楽しめる知識本となっています。

著者略歴

今泉 忠明 (イマイズミ タダアキ) ……1944年東京都生まれ。東京水産大学(現 東京海洋大学)卒業。国立科学博物館で哺乳類の分類学・生態学を学ぶ。文部省(現 文部科学省)の国際生物学事業計画(IBP)調査、環境庁(現 環境省)のイリオモテヤマネコの生態調査などに参加。上野動物園で動物解説員を務める。主な著書に『アニマルトラック』(自由国民社)、『動物の「衣・食・住」学』(同文書院)、『進化を忘れた動物たち』(講談社)、『地球絶滅動物記』(竹書房)、『野生ネコの百科』(データハウス)、『かわいいネコには謎がある』(講談社)、『行き場を失った動物たち』(東京堂)、『珍獣学入門』(幻冬舎)、『山と森の動物たち』(朝日出版社)など。他に図鑑LIVE『動物』、『危険生物』(Gakken)、『ざんねないきもの事典』シリーズ(高橋書店)など監修書籍多数。

くぬぎ 太郎 (クヌギ タロウ) ……イラストレーター、デザイナー。2003年多摩美術大学美術学部生産デザイン学科卒。住宅設備機器メーカーでプロダクトデザイナーとして勤務後、2008年よりイラストレーターとして独立。かわいらしくあたたかみを感じる画風で、新聞・雑誌・WEB・書籍などさまざまなメディアでイラストとデザインを手掛ける。アートディレクターとしても活動するほか、アートギャラリーの運営にも携わるなど、活躍の幅を広げている。

既刊 寝るのが楽しくなる
見るのが楽しくなる
聞くのが楽しくなる

睡眠のひみつ 本体2,000円 978-4-422-41098-2
目のひみつ 本体2,500円 978-4-422-41181-1
耳のひみつ 本体2,500円 978-4-422-41182-8

続刊 (2025年9月) 嗅ぐのが楽しくなる 鼻のひみつ
(2025年11月) 知るのが楽しくなる 毛のひみつ
(2025年12月) (仮) 知るのが楽しくなる うんちのひみつ

注冊冊数

冊

コーナー：自然科学

生物学

ネアンデルタール人再発見

受注締切:7月1日／搬入予定:7月15日

科学が再構築した新しい人類史



条件:新刊委託
A5変／上製／予288頁

ディミトラ・パパギアーニ、マイケル・A・モース著／篠田謙一監訳／武井摩利訳
本体予価4,800円

ISBN978-4-422-43066-9 C1045

DNA研究により、彼らの姿は「単純で野蛮」から一変した。死者を埋葬し、絵を描くなど文化的な行動をしていたことが明らかになった。私たちのDNAには彼らの遺伝子も一部残っており、彼らは完全に絶滅していないとも言える。本書では、ネアンデルタール人と現生人類やデニソワ人との関係、社会性、受け継がれた遺伝子の影響などの最新研究を紹介し、「ヒトとは何か」を問い直す。アメリカ考古学協会図書賞受賞(2015年)

著者略歴

ディミトラ・パパギアーニ ……ケンブリッジ大学で旧石器時代と石器を専門に学び、ギリシャ北西部のネアンデルタール人遺跡に関する研究で博士号を取得。南東ヨーロッパ全域でネアンデルタール人の行動や、現生人類の出現とネアンデルタール人の消滅の問題を研究した。サウサンプトン、ケンブリッジ、オックスフォード、パースの学部、修士課程、継続教育課程で教鞭をとる。一般コースを教えているとき、学生からネアンデルタール人の栄枯盛衰を概観できる、最新でわかりやすい本を紹介してほしいと頼まれ、夫のマイケル・A・モースとともに本書を執筆。本書(現在、第3版)はアメリカ考古学会図書賞を受賞し、入門書の定番となっている。

篠田 謙一 (シノダ ケンイチ) ……分子人類学者、国立科学博物館館長。1955年生まれ。京都大学理学部卒業。博士(医学)。産業医科大学助手、佐賀医科大学助教授を経て、国立科学博物館人類研究部勤務。2021年より同館の館長を務める。著書に『人類の起源』(新書大賞2023第2位、中央公論新社)、『江戸の骨は語る』(科学ジャーナリスト賞2019、岩波書店)、『DNAで語る日本人起源論』(岩波書店)など多数。

既刊

ホモ・サピエンス再発見
本体4,800円 978-4-422-43060-7

注冊冊数

冊

コーナー：自然科学

生物学

たくましくて美しい 淡水生物図鑑

受注締切:7月1日／搬入予定:7月15日

関慎太郎著／本体2,000円

ISBN 978-4-422-43065-2 C0045

日本屈指の自然写真家・関慎太郎による、身近な田んぼや川に暮らす淡水生物と水辺の生きものの図鑑。生息環境を知り尽くした関さんは、生きものを未来に残すため、日本初の生息域外保全施設「びわこベース」を設立。本書では、その豊富な経験と活動をもとに、知られざる生態や保全の重要性を貴重な写真とともに紹介。身近な生きものの魅力を再発見し、新たな関心と人材育成につなげる。環境配慮書籍(FSC、GP、植物性インキ)

著者略歴

関 慎太郎 (セキ シンタロウ) ……1972年兵庫県神戸市に生まれる。滋賀県大津市在住。びわこベース https://www.biwako-base.com 代表。両生類・爬虫類・淡水性・汽水性の甲殻類・淡水魚類や水田に関わる生物とその周辺環境を撮影することをライフワークとし、図鑑や写真絵本 https://www.az-relief.com/books などでも精力的に発表している。琵琶湖博物館や京都水族館、日本両棲類研究所の立ち上げに携わる。オオサンショウウオの展示やイモリの展示など国内外の水族館から要請を受け、数々の淡水生物展示を監修する。2022年7月、日本初となる生息域外保全施設を備えた新しいな水族館「びわこベース」をオープン。琵琶湖を中心とした200種以上の水生生物を展示している。今も全国の田、川、湖などで精力的に写真を撮り続けたり自然TV番組のコーディネートも多く手がける。 https://www.instagram.com/sekishinta/



条件:新刊委託
A5変／並製／144頁

既刊

たくましくて美しい 糞虫図鑑 本体1,700円 978-4-422-43042-3
たくましくて美しい ウニと共生生物図鑑 本体1,700円 978-4-422-43043-0

注冊冊数

冊

FAX 06-6233-3111

創元社

https://www.sogensha.co.jp/

〒541-0047 大阪市中央区淡路町4-3-6 TEL 06-6231-9010



※担当者名が未記入の場合、取次店都合で配本がなくなる可能性があります。

担当者名

年 月 日

☆締め切り日を過ぎた場合は注文扱いで出荷

コーナー：心理学

精神分析

ユング心理学

条件：新刊委託
四六／並製／予184頁

『ユング心の地図』、『BTS、ユング、こころの地図』の著者マリー・スタイン最新刊

受注締切：6月19日／搬入予定：7月3日

ユング派精神分析の四本の柱

マリー・スタイン著／大塚紳一郎訳／本体予価2,800円

ISBN 978-4-422-11843-7 C0011

ユング心理学は他の心理療法と何が異なるのか——この問いに対し、著者は長年の考察と対話を経て、その本質を「個性化」「治療関係（転移・逆転移）」「夢分析」「アクティヴ・イマジネーション」という四つの柱に整理し、他の心理療法と異なる点を明確に示した。本書では、これらの要素がどのようにユング心理学を形作り、実践にどう生かされているのかを深く掘り下げる。ユング心理学の全体像をつかむための格好の入門書。

著者略歴

マリー・スタイン（マリー・スタイン）……アメリカのユング派分析家。シカゴのユング研究所で20年にわたり教育分析家を勤める。2003年以来スイスに住み、現在はISAP Zurich（チューリッヒ国際分析心理研究所）の訓練分析家・スーパーバイザー。IAAP（国際分析心理学会）会長、ISAP Zurich所長を歴任。著書に『BTS、ユング、こころの地図』（創元社）、『ユング心の地図』（青土社）ほか多数。

大塚 紳一郎（オオツカ シンイチロウ）……1980年、東京生まれ。臨床心理士・公認心理師。2002年、慶應義塾大学文学部卒。2009年、甲南大学大学院人文科学研究科博士後期課程単位取得退学。現在、大塚プラクシス主宰。訳書に『BTS、ユング、こころの地図』（創元社）、『ユング 夢分析論』、『心理学の7つの大罪』、『医師が死を語るとき』、『ひとつの心とひとつの世界』、『パーソナリティの発達』（みすず書房）など。

目次（予定）

ささやかな序文

第一の柱 個性化のプロセス

第二の柱 分析的関係性

第三の柱 夢、全体性への道

第四の柱 アクティヴ・イマジネーション、変容をもたらすもの

訳者あとがき

既刊

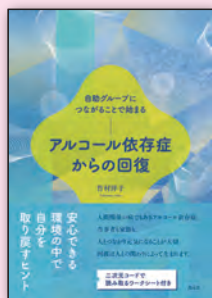
※ロングセラーから近刊まで、創元社のユング関連書をセレクトした「ユング生誕150年フェア」も実施中です。新刊と併せてぜひどうぞ。詳細は営業担当者、または創元社まで、お電話でお問い合わせください。

注文冊数

冊

コーナー：心理学

心理学一般

条件：新刊委託
A5／並製／144頁

受注締切：6月19日／搬入予定：7月3日

自助グループにつながることで始まるアルコール依存症からの回復

竹村洋子著／本体2,000円

ISBN 978-4-422-11844-4 C0011

40年以上アルコール依存症に関わってきた著者が、講演で語った、アルコール依存症の知識から、当事者と家族の心理、自助グループで「聴く・語る」体験をすることの大切さまで、回復のために本当に必要なことが書かれています。見開き1テーマで展開し、左頁にわかりやすい解説、右頁にグラフや図、チャートやワークがあり理解が進みます。二次元コードを読み取ればワークがプリントでき、自分のところを見つめ直せます。

著者略歴

竹村 洋子（タケムラ ヨウコ）……臨床心理士、竹村診療所臨床心理室長。香川県生まれ。精神分析家の高橋哲郎のもとで精神力動的集団療法の研修を、京都大学教育学部臨床心理学科大学院で研修を受ける。精神科医療に心理職として携わり、大学院での客員教授や京都市スクールカウンセラー・スーパーヴァイザーなどとしても活躍。公認心理師、ASK依存症予防教育アドバイザーでもある。アルコール依存症の自助グループでも、当事者と家族に支援者として40年以上関わっている。安全で人の温もりを感じ取れる和の中で「聴くこと・語ること」を重ね、いのちの根底からの「自分育て」を試みることの大切さを提唱している。アルコール依存症のこころの内についての分かりやすい解説や、当事者と家族に取り入れているロールプレイには定評がある。著書に『いのちの営みに添う心理臨床～人が出会い、共に生きるということ』（創元社）などがある。

目次（予定）

はじめに

1章 アルコール依存症を知る

アルコール依存症とは？
アルコール依存症者のこころの内
応急処置としてのアルコール
人間関係の病
かつてないほど注目される依存症
なぜ依存症が増えている？
10代のアルコール依存は要注意
アルコール依存症の背景
アルコール依存が引き起こす問題
まずは医療にかかる
自助グループにつながる
体験談1

2章 大きな助けになる自助グループ

自助グループのはじまり
自助グループの種類
自助グループの中でよみがえる
当事者も家族も大切に

困りごとを癒す出会いの場
大切な例会やミーティング
自助グループでの当事者の気づき
家族会につながった家族の気づき
体験談2
3章 不安や怒りと向きあひ方
人との出会いの中で生じる感情
新たな関係性に気づく手がいかり
怒りと脳では何が起きている？
怒りの奥にある気づきたい気持ち
怒りを伝えることができれば
家族の怒りと伝え合うこと
参加することで気づく気持ち
怒りの感情に気づく
怒りは自分の内で起こっている
怒りをコントロールする
怒りの思考を置き換える
怒りの背景にある傷つき
体験談3

4章 自助グループで育つ素直な甘え

怒りを大人の甘えに変える
獲得したい素直な甘え
屈折した甘えって何？
当事者の家族に向けた甘え
「素直な甘え」に近づくために
自助グループで体験談を話すこと
「素直な甘え」と自助グループ
家族が会に参加して育む甘え
ともに育ち合う関係
自助グループで自分に出会う
体験談4

5章 自助グループの中で

思い込みを理解に変える
生きてきた環境で育つ思い込み
飲んでいた時の思い込み
飲んでいた時の家族の思い込み
家族が家族会につながる
つながって変わるこころ

家族会につながった家族の気づき
当事者が断酒して気づくこと
家族の当事者への手助け
いのちを育む出会いの場
思い込みを理解に変えるとは？
体験談5

6章 こころを癒す手立て

自分の中にある自己治療力
行き詰まったら誰かに頼る
安心感の持てる環境
聴くことと語ること
自助グループで「聴く・語る」こと
医療で信頼関係を回復
自助グループに参加する支援者
ワーク① 私と相手の「～すべき」
ワーク② 怒りの形と色
おわりに

注文冊数

冊